

花いかだ

2025. 4. 30

昨年のお花見シーズンでは、義理の父と母を開成山公園に連れていった。天気は晴れ、風もない。桜はほぼ満開という絶好のお花見日和に恵まれた。近くに昔からある有名なお花見団子も買い込んだ。自然とスマホでの撮影となった。いろいろとやっているうちに、スマホでも十分にきれいな写真が撮れることがわかってきた。この発見は、その後の幼稚園ブログの写真に生かされることとなった。

今シーズンも義理の父と母をお花見に連れていきたい。さて、どこがいいか。お花見には、お天気は晴れ。それも青空。ほぼ無風。土日の週末。寒くはない。そして、桜は満開という条件がそろわなければならない。開成山公園はタイミングが合わなかった。そこで、いろいろと検索してみた。県内には、お花見の名所がいくつもある。行ったことがないところばかりである。今までは知らなかった。

週末に、ちょうど満開というところは、なかなかない。石川町の今出川というところが、散り始めと出ていた。とりあえず行ってみるか。石川町、それも町の中心部に行くことはまずない。石川町と言えば、八幡屋に行くくらいである。

ナビにしたがって今出川を目指す。規模は大きくはないが、川が流れ、駐車場があり、出店も出ていた。人が多すぎることもなく、程よい感じである。ちょうどベンチが空いていた。そこに陣取ることにした。

お花見団子は、郡山からいつものお団子を買って来ていた。散り始めとあったが、ほぼ満開の状態だった。コンデションとしては上々だった。早速、スマホで写真を撮った。昨年に勝るとも劣らない秀作が出来上がった。義理の両親の笑顔、青空、そして桜、これらがそろって最高の写真となる。改めて、そのことを認識することができた。

時折、少しばかりの風が吹く。すると、桜吹雪となった。桜舞い散る景色である。それはそれは見事だった。まるで紅白歌合戦である。思わず、写真ではなく動画に収めた。満開を過ぎ、散り始めとなると、こういった光景を目にすることができるということがわかった。

もう一つ、散り始めの時期ならではのものが見つかった。流れる川に目をやると、水面に薄ピンクの花びらが浮かんでいた。花びらの絨毯が、川を流れていく。家人が、「花いかだ」と言った。花いかだとは、水面に散った花びらが連なって流れているのをいかだに見立てた言葉である。

桜吹雪も花いかだも、初めて見たような気がする。一言で、桜とか花見とか言うが、その場所によって、またそのときの条件により、目にする光景も、その味わいも違ってくる。そのことが、ここ数年でわかってきた。また、来年も、条件が合うベストの場所を探して、義理の両親に桜を見てもらいたい。そして、二人の笑顔を写真に収めたい。